作文タイトル　鳩のいる東京を守ろう　1 枚目

フリガナ　ショウ　ケイケン

氏名　邵继轩　学年　2 年

※提出するすべての原稿に記入ください。

「日本で何か面白いことあった？」

「そうだねぇ、鳩たちのことかなぁ。」

「鳩？」

「そう。東京の街にはたくさんの鳩がいる。全然、人を怖がらない。」

中国の友達に聞かれてそう答えた。

私は鳥が好きで「帰鳥」というニックネームも持っている。だから日本の街で鳩たちを見た時、何だかに嬉しくなった。そして、日本人と鳩の関係を羨ましく思った。

私は自然に対して畏敬の念を持っている。人が作り出したものではない自然の風景、動物や植物はすばらしいと思う。しかし、残念なことに人類の進化や発展とともに数多くの生物が絶滅している。中国に生息していたシナヘラチョウザメという魚が絶滅したことを知った時も、とても悲しい気持ちになった。

私は絶滅について考えた。

17世紀末のドードーという鳥の絶滅によって、人類は初めて「絶滅」という概念に直面

作文タイトル　鳩のいる東京を守ろう　2 枚目

フリガナ　ショウ　ケイケン

氏名　邵继轩　学年　2 年

※提出するすべての原稿に記入ください。

する。この鳥は食べ物として人に捕食され、さらに人間がモーリシャス島に持ち込んだ動物に卵を食べられた末、絶滅したという。これで話は終わらない。ドードーはカリヴァリアという樹木の実を主食としていた。カリヴァリアの種はドードーに食べられて硬い殻が消化されないと発芽できない。ドードーが絶滅してからカリヴァリアは繁殖できなくなった。アメリカの生態科学者テンプルがドードーの絶滅がカリヴァリアの繁殖停止の原因であることを示すまで人は何が起こったかわからなかった。一つの生物の絶滅はその種の問題だけではすまない。一種の生物の絶滅は大きく生態系を崩す可能性があるのだ。

皆さんは奈良の本薬師寺跡へ行ったことがあるだろうか。そこには夏、薄紫色の花が咲いている。絶景だ。しかし、その花の名前を知る人の一部は嫌悪感を抱くかもしれない。それは「ホテイアオイ」という花だ。この植物はもともと鑑賞用の花として輸入された外

作文タイトル　鳩のいる東京を守ろう　3 枚目

フリガナ　ショウ　ケイケン

氏名　邵继轩　学年　2 年

※提出するすべての原稿に記入ください。

来種である。外来種は天敵がいないため急速に大量繁殖する。生態系の中で数を増やし、生息域を広げて他の生物が生きていけない状態にすることもある。ホテイアオイには水質浄化の効果があるから様々な水域に投入された。天敵のいない水域に投入されたホテイアオイは、急速に繁殖して水面を覆った。水面下に住んでいる魚などの生物は、酸素が足りなくなって次々と死んでしまった。冬になるとホテイアオイは枯れて川の底に沈む。これが悪臭の原因になる。佐賀市は美しいけれど害を及ぼすホテイアオイに困っている。

国際化が進んでいる今、輸出や輸入、外国旅行による人の出入りは多い。貿易や旅行で国外地域から持ち込んだ種、卵、虫が現地の環境に悪影響を及ぼすことも多い。

人はどのような解決策を考えているのだろう。国内の野生動物を保護する法律を定める国はある。法律を決める前に、個々の生物の生態を入念に調査することはもちろんだが、

作文タイトル　鳩のいる東京を守ろう　4 枚目

フリガナ　ショウ　ケイケン

氏名　邵继轩　学年　2 年

※提出するすべての原稿に記入ください。

生物が絶滅した後の影響、一つの種が消える
ことで、私たちが他に何を失うのかを考えて
ほしい。その上で動物や植物が生き残れる法
律を作るべきだと思う。

　税関の厳しい検査などで外来種の侵入防止
に努力している国もある。オーストラリアは
とても優れている。特殊な環境の中で育つ特
殊な動物や植物を徹底的に守っている。これ
は、オーストラリアだけに生息する珍しい動
植物が世界の人々から注目されていることが
一つの要因になっているのでないか。

　国際的な協力による人工繁殖も解決策の一
つだ。日本を象徴するトキという鳥は絶滅に
近づいている。今、中国のトキを入れて人工
繁殖させ数を増やしていこうと頑張っている。
その数は2019年現在、600羽を保っている。

　絶滅に直面する種を出してしまったことは、
私たちの「失敗」である。失敗する前に、考
えなければならないことがある。それは人が
自然に対して尊敬の気持ちを持つことだ。そ

作文タイトル　鳩のいる東京を守ろう　6 枚目

フリガナ　ショウ　ケイケン

氏名　邵继轩　学年　2 年

※提出するすべての原稿に記入ください。

のような気持ちを持たない限り、人は自然を破壊し続ける。環境のことを考えてレジ袋をやめることや小さな虫の命を救ってあげることも、自然に対する尊敬の気持ちを持つことになる。私たちの生活は自然の中にあり、その恩恵を受けている。自然が消えれば、私たちも消えてしまうことを忘れてはいけない。

生物の絶滅と聞くと、私たちの生活とは遠く離れた問題のように思っていた。しかし、日本に留学してから、以前より身近な動物や植物に目を向けるようになった。すぐそばにいる鳩を見て「愛おしい」という気持ちになる。東京の鳩をそのような気持ちで私は見ている。

持続可能な開発や社会作りには生物の多様性、豊かさを守ることも含まれる。私は、日本から、東京から発信したい。

「皆さん、多様性のあるこの世界を私たちの手で守ろう！」

作文タイトル　鳩のいる東京を守ろう　6 枚目

フリガナ　ショウ　ケイケン

氏名　邵继轩　学年　2 年

※提出するすべての原稿に記入ください。

参考文献：

佐賀新聞 LIVE https://www.saga-s.co.jp/articles/-/533231(6/11 10:00)